

## 1. 活動の概要

5月16日(水)、松江市立持田小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。“「奈良の大仏」の巨大さと込められた思い”と題し、実物大の大仏パネルづくりを中心とした学習活動をおこないました。

まず出雲国府跡から出土した奈良時代の土器の質感や重さを、自分の手で確かめてもらいます。そして奈良時代の出雲がどのような地域であったのか、奈良の大仏がつくられた時代背景について紹介し、体育館のフロアいっばいに、みんなで協力しながら大仏パネルをつくってもらいます。この体験活動を通して、大仏の大きさを実感することができたのではないかと思います。最後に完成した大仏を観察しながら、大仏のつくりかたや螺髪、白毫、印などについて説明しました。

## 2. 活動の様子



「奈良時代の土器を実際に触ってみよう」



「奈良時代の出雲ってどんな様子だったのかな」



「持田小大仏をきれいにつくろう」



「大仏の大きさや特徴を知ろう」

## 3. 子ども塾を終えて

### 1) 児童の皆さんから…

- ・奈良時代の器を実際に触ってみて、思ったよりも軽かったです。
- ・東大寺の大仏をつくるのに12年もかかったと聞いて、びっくりしました。
- ・実物大の大仏をパネルでつくってみて、とても大きいと思いました。
- ・これから社会科で奈良時代を学ぶので、そのときに奈良時代について理解しやすくなると思いました。
- ・本物の奈良の大仏を見に行きたいです。

### 2) 担任の先生から…

- ・大仏の大きさを実感できただけでなく、全国から材料が集められたり、多くの人が大仏づくりに関わったりしたことなど、社会科の学習にそった内容で、理解の深まりにつながったと思います。
- ・東大寺の大仏の実物大の大きさを実感したり、出土品をさわったりすることで、興味関心が高まるとともに、理解の深まりにもつながったと思います。
- ・奈良に行ってみたいという子やもっと長く学習したいという子もいて、社会科に興味をもった子が増えました。